

キチンと読む たくさん読む

(株)UFJ総合研究所 教育事業部

副主任研究員

山田 奈生子

私は企業内研修の講師をしています。新入社員の
中にテキストをキチンと読めない人がいるということ
をご存知でしょうか。新入社員の使うテキストは、義
務教育を終えていれば理解できる内容です。しかし、
読ませてみると、まるで英語の教科書を読んでいるか
のようなのです。

また、自己紹介のときに単語だけを並べて話す人が
います。例えば研修の感想を述べてもらつと、Aさん
は「楽しいです。でも疲れます。がんばります」です
が、Bさんは「学校時代と違っていろいろな人がいる
ので楽しいです。でも座ってばかりで少し疲れます。
せっかくの機会なのでたくさんの人と話したいです。
がんばります」と話します。本当はAさんもBさんも
同じ事を言いたいのですが、Bさんの方が自分の状況
を上手に表現しています。そして、講師である私に
「座ってばかりでつまらなかったのか。グループ活動
を入れて変化をつけよう」と思わせるような、聞き手
を動かす力を備えています。Aさんの方は同年代同士
であればともかく、場合によっては「やる気が感し

れない」と誤解され損をしてしまいます。気をつけ
て見ていると、Aさんのように、単語だけを並べて話
す人は、読むことが苦手なように思えます。

言葉は上手に使用えば相手を動かすことができます。
相手の様子をよく見て、理解に合わせて使えば大き
な力を発揮します。それには、場面場面でどんな言葉
がいいのか選はねばなりません。言葉を増やすことは
自分を知ってもらうためにも、相手を動かすためにも
大切です。これは、「読む」ことによって得られるこ
とが多いのではないのでしょうか。また、読むことで
自分とは違う意見、未体験の事柄に触れ、「自分の思
いだけが唯一無二ではない」ということに気づき、他
人の意見に耳を傾けるようになるのです。

「読む」とは書き手の人生をなぞり、「他人の人生を
生きること」に繋がります。また、自分の世界を広
げ、さまざまな言葉を学ぶ場でもあります。社会に
出る前に、たくさん「読む」ことをし、環境が変化し
ても上手に人間関係を築ける力を育てていただきた
いと思います。